令和5年度 県立高萩高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校 (2) 一人ひとりの多様性を認め、個に応じた支援をする学校 (3) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指す学校 (4) 誰にでも居場所があり、安心して自己実現を図れる学校 (5) 主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	① 自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞き、課題を解決しようとする人財 ② 地域・社会の課題に関心を持ち、自己の能力を活かして、社会貢献できる人財 ③ 他者と協働して、課題解決を図っていく人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	① 多様な学校設定科目から、自己の特性に合った科目選択 ・体験型の学習（リズムエクササイズ、日本の伝統文化《茶道・華道・書道》、折り紙） ・異文化理解（韓国の言語と文化1・2） ・基礎学力定着（基礎数学、基礎から学ぶ英語、基礎国語Ⅰ、ベーシック社会など） ② フレックスならではの科目 ・ライフスキルを高める心理学・人間関係の構築 ・魅力！いばらきの農業・生産、収穫を通して達成感を得る ③ 柔軟なカリキュラムで、主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育み、希望に応じた進路実現を目指す ④ 通級指導の効果的な実施（必要に応じて外部専門機関等との連携推進）	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	① 自分の得意・苦手を理解し、得意をさらに伸ばし、苦手を克服しようとする生徒 ② 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒 ③ 学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 平成30年度に定時制を開設。令和2年度に定時制としての初の卒業生を送り出した。県北地区唯一のフレックススクールとして、生徒一人一人に寄り添いながら、個々の長所を伸ばして自己有用感を高めると共に、高校卒業後を見据え、社会性の定着と自主自立の確立に取り組んできた結果、令和4年度卒業生の進学及び就職希望者は、100%に近い進路決定率を達成した。 【課題】 (1) 一人ひとりの多様性に対応し、個に応じた支援の研究 (2) 『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践、及び実践を促進するためのICTの活用 (3) 「心の居場所づくり」の充実 (4) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路を実現するための研究 (5) 危機管理体制の確立と安全安心な学校づくり	(1) 基礎学力の定着に基づく、確かな学力を育む教育の推進	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践のため、授業公開を通しての学習指導法の工夫改善を図り「わかる授業」「考えさせる授業」「課題の発見・解決に繋げる授業」の充実に努める。加えて、1人1台のICT端末を有効活用し、生徒に学ぶ喜びや楽しさを実感させ、基礎・基本の定着の及び、主体的・意欲的に学ぶ態度の育成に努める。	
	(2) 全職員の共通理解に基づく授業改善の推進	授業強化週間を利用して相互に授業を参観したり、効果的な授業実践に係る校内研修などを実施したりして、互いに研鑽し合いながら教員一人ひとりが授業力の向上に努め、生徒に「理解できた」という達成感を持たせると共に、生徒が自ら興味関心をもって、主体的に学びに向かう姿勢の涵養に取り組む。（生徒による授業評価の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上）	
	(3) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かな支援体制・特別活動の推進	個別面談の充実に努め、生徒理解に努め生徒との強い信頼関係を構築する。また、学校カウンセリング体制の充実に努め、心の居場所の確保とともに安心して学べる環境の構築・充実に努める。さらに今年度から始まる「通級」指導については、全職員の共通理解の下、必要に応じて外部専門機関等と連携協力しながら実施する。 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、特別活動や部活動の充実に努め、さらにキャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を味わい、思いやりの心、規範意識、公共心を醸成し、心豊かな人間性の育成に努める。	

別紙様式2（高）

(6) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・キャンパスエイドの積極的な活用 (7) 午前部・午後部の二部制に対応した学校行事の効果的な実施 (8) 広報の工夫と地域との連携の推進 (9) 主体的に取り組む生徒の育成 (10) 通級指導の効果的な実施	(4) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かなキャリア教育の推進	将来を見通したキャリア教育の視点に立ち、各年次段階に応じたきめ細かなキャリアガイダンスや進路情報の提供を通して進路意識の向上を図る。また、生徒一人ひとりに望ましい勤労観・職業観を育み、キャリアパスポートを活用して、将来、社会人・職業人として生き甲斐を持って生きていく生徒の育成に努める
	(5) 地域に貢献し、地域と連携を深め、地域に開かれた学校づくりの推進	積極的な学校公開や科目履修生の受入、地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の健やかな成長を図る。また、ホームページや各種広報活動を通して、フレックススクールとしての特色ある教育活動への理解と協力を得るように努める。
	(6) 校務の精選とPDCAサイクルによる学校運営の改善、及び働き方改革の推進	本校の教育活動及び業務について、生徒の自立支援の観点から見直しを進め、必要性の低い業務は削減・縮減し、教職員のマンパワーを必要な業務に注力し、PDCAサイクルを用いて改善を図り、より効果的な学校運営に取り組む。また、校務・情報の共有化と視覚化により、業務分担を明確化し、教職員の勤務時間と業務負担の適正化に努めるとともに、生徒の学びをより豊かなものにできるよう努め、本校の働き方改革を推進する。

評価項目	具体的目標	具体的方法	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	家庭学習習慣の定着と基礎・基本の学習の定着を図る	学び直しを基本とした授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。		
		基礎・基本の定着を目指し、ドリルや小テスト等を実施し、生徒の理解度把握に努める。		
		定期的に課題問題集や課題プリントを課して、家庭学習時間を増加させる。		
	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践により「課題の発見・解決に繋げる授業」の展開を図る	相互授業観察期間での公開授業で『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践と研究を推進する。さらに、日々の授業でICT機器を有効活用して生徒の授業理解を促進し、主体的に学ぶ意欲を育成する。		
		グループワーク等を取り入れ、ともに考え・学び合う環境の醸成を図る。		
		緻密な研究によりシラバスを作成し、観点別評価での評価の観点について生徒に周知し、生徒の学習意欲を喚起する。		
生徒一人ひとりの多様性を認め、個に応じたきめ細かい指導を行う	生徒が興味を持って学習活動に取り組むことができるよう、指導法を工夫する。			
	一人ひとりと向き合い、ICT機器を積極的に活用し、個に応じた適切な支援を行う。			
国語	授業の改善に努める	一人ひとりの進路希望の実現が可能な、柔軟なカリキュラムを編成する。		
		授業の内容・指導方法について担当者が相互に研鑽し、ICT機器を積極的に用いて分かりやすい授業づくりに努める。		
		各自が様々な文章に接することで研修に努める。		
	家庭学習の定着に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		毎時間、前時の復習を行い、定期的にワークシートを点検する。		
		小テストを実施することで家庭学習の習慣を身に付けさせる。		
	基礎学力の向上に努める	ワークブックを利用した学習を行い、語彙力を高め、標準的な文章を読めるようにする。		
		進学希望者及び成績不振者に対し、課外・補習を実施し、個に応じた支援をする。		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る	定期的提出物を確認し、授業内容の理解度を把握する。		
		定期的課題や小テストを実施し、学習習慣を定着させる。		
		定期考査後に、理解の不十分な生徒に対しては課題を与え、基礎学力の定着を図る。		
	生徒の進路希望に対応した学	新聞・インターネット等を利用して地域的・時事的な問題を取り上げ、社会への興味関心を高める。		

別紙様式2(高)

民	習指導に努める	基礎事項の徹底により、個々の進路希望に対応した授業を展開する。			
	授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。			
教	数学	基礎学力の向上を図る	小テストや学習プリントで基礎の定着度を把握し、つまづきのある生徒に対して個別指導を実施する。		
			定期考査対策や学び直しの補習を実施し、繰り返し指導により学力を積み重ね、考査に取り組ませる。		
			わかりやすい教材工夫で学習内容を焦点化し、生徒に考えさせて興味を引き出し、学習意欲を高める。		
			授業に活用するノートやファイル、問題集等の定期点検を実施し、生徒の学習状況を確認する。		
	家庭学習の定着に努める	定期的な課題プリントや長期休業中の宿題を課して定期点検し、家庭学習の習慣を付ける。			
個々の理解度にあわせた指導に努める	授業内容の復習と学び直し中心に個別の質問に対応し、基礎力を養成する。				
授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。				
科	理科	興味・関心をもたせる授業を展開する	ICT機器や実験・観察を積極的に行う。 日常生活と科学的事象とのつながりを意識した導入・例示を積極的に用いる。		
		基本的な授業態度を身に付ける	生徒の発言する機会を多く設け、主体的に授業に取り組ませる。 授業プリントを定期的に点検し、授業への取組や理解度を点検していく。		
		基礎学力の向上を図る	小テストを実施し、学習の理解度を把握し、補習等も実施する。		
			小中学校理科とのつながりを重視し、基礎的・基本的知識の定着を図る。 進学希望に十分対応していけるよう、応用的内容の充実を図る。		
		授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
指	保健体育	個に応じた基礎体力の向上を図る	毎時間授業の導入段階で、グラウンドを自分に合ったペースで2周(800m)走らせる。 ICT機器を活用し、自分の身体の動かし方を理解させる。		
		集団行動の意義を理解させる	準備運動には県民体操を全学年に取り入れる。 集合・整列・右へならえ等の集団行動を導入段階で行う。		
		自らの健康を見直し、主体的に判断し行動する資質・能力を高める	現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方等について理解させ、自らと比較し、改善することができるようにする。また、生涯学習の観点からも体育理論についても深く理解させるようにする。		
		授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		個性豊かな表現の能力を高める	生徒一人一人の特性を考慮した指導を工夫する。		
導	芸術	芸術文化についての理解を深める	音楽・美術の見方・考え方を働かせ、芸術の多様性について理解を深めさせる。		
		芸術を愛好する心情を育てる	音楽・美術の基礎的な能力や態度を育てる。 様々な表現方法を体験させ自分の考えを表現する力を育む。		
		授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		家庭学習の習慣化と基礎・基本の定着を図る	学び直しを基本とした授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。 基礎・基本の定着を目指して、小テストを実施し、生徒の理解度把握に努める。 定期的に課題問題集や課題プリントを課して、家庭学習時間を増加させる。		
外国語	「わかる授業」、「教えて考えさせる授業」の展開を図る	「わかる授業」で生徒に達成感をもたせ、主体的に学ぶ意欲を育成する。			
		ペア・グループワークを取り入れ、ともに考え・学び合う環境の醸成を図る。 学習内容を精選し、生徒が興味を持って学習活動に取り組むことができるように、指導法を工夫する。 授業内でICTを活用し、動的で双方向的な活動をすることで、英語に対する興味関心を高める。			

別紙様式2（高）

教		生徒一人ひとりを大切にす きめ細かい指導を行う	一人ひとりの習熟度に応じた適切な指導を行う。		
		異文化理解を深める	一人ひとりが希望進路を実現できるように、個に応じた指導を行う。		
		授業の改善に努める	英語母語話者であるALTの英語に触れさせ、実践的コミュニケーション能力を養成する。		
		授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
科	家庭	基礎的・基本的な知識と技術の 定着を図る	ICTや学習ノート等を活用し、わかる授業に努める。 実習においては、実習助手とともにきめ細かい指導を心がける。		
		安全管理の徹底に努める	衛生に気を配り、事故やけがの無いようにする。 包丁・調理器具等の数の点検を毎時間行い、備品の管理を徹底する。		
		楽しく意欲的に取り組める授 業づくりに努める	考える時間、実習する時間を十分に確保する。 定期的な提出物の確認を通して、学習意欲を高めるとともに、つまずきに気付き支援する。		
		授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		基礎的な知識と技術の定着を 図る	生育環境や身近な草花や作物の栽培法を理解し、実習を通して収穫の喜びを知る。 県内農業の特徴を理解し、産業の分布と地域性を学ぶ。 ICTを活用し、わかる授業に努める。		
指	農業	安全衛生管理の意識を持たせ る	生産物の加工を通して、食品の安全と衛生管理を理解し、生活に生かすことが出来る力を身につける。 農機具・造園用具の使用法を徹底させ、安全な利用の定着を図る。		
		命の大切さを体得する	草花や作物の栽培を通して、命を育む大切さを理解させる。 草花や作物の利用を通して、人間が生活するために命を利用する必要性を理解する。		
		授業の改善に努める	「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		「ライフスキルを高める心理 学」：豊かな人間関係をつくる	自己理解、他者理解を通して、豊かな人間関係をつくり、対人関係におけるスキルを習得する。 心身の健康を保つ力を養う。 自分の生き方について考える。 「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
導	総合	「リズムエクササイズ」：コミ ュニケーション能力を育成す る	リズムに乗った動きを通し、自己表現することで、心と体をほぐす。 集団でエクササイズをすることにより、他者との関わりを広げる。 「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		「日本の伝統文化」：日本の伝 統文化への理解を深める	華道・茶道・書道などの日本の伝統文化に触れる。 活動を通して他者との関わりを学び、コミュニケーション能力を身に付ける。 「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		「折り紙」：折紙をつくること で達成感を得る	折紙の基礎的な技法を学び、日本の伝統文化である折紙の美しさを感じる。 作成した折り紙で他者と遊び、コミュニケーション能力を身に付ける。 「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		「韓国の言語と文化1・2」：韓国 語と韓国文化の理解を深める	韓国語の初級・中級文法を習得し、会話の能力を高めて韓国語に親しむ。 韓国の文化に触れる。 「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.0以上を目指す。		
		本校の実態にあった教育課程を作る	本校の特色を出した教育課程を編成する。		
		適正な行事の配置と授業時間 の確保に努める	年間・月間行事予定の作成、日課・授業変更調整等を各年次・各分掌と連携をとって行う。 できるだけ多くの授業時間を確保し、生徒の基礎学力向上を目指す。		
教務					

別紙様式2（高）

	人権・ジェンダーや同和問題への関心・理解を深める	研修を通して、諸問題を理解し、意見を交換することによって考えを深める。		
	広報誌や学校説明会を通じて広報活動を活発に行う	ポスター・スクールガイド・萩高だよりの作成・配布を通して、中学校に本校の現状を発信する。		
	図書の精選・充実を図るとともに、図書館利用の推進を図る	生徒への図書館情報の発信に努め、カウンター当番や図書の管理など、図書委員会活動を活発に行う。		
		蔵書の充実を図る。 授業・LHR・総合的な探究の時間・課外活動などでの有効利用を図る。		
PTAや同窓会と連携して生徒の教育活動の支援に努める	評議員会やPTA総会・講演会等における出席率の向上を目指し、綿密な連絡、事前準備、計画を行う。			
	研修・広報・生徒指導の3委員会活動の綿密な計画、事前準備を行う。			
	講演会の形式や研修旅行の内容見直しを図り、会員相互の研究、研修を充実させる。			
	PTA会報や配付文書の内容を見直し、保護者に学校内における生徒の活動状況や教職員の努力の姿勢を十分に伝えることを心がける。			
	学校行事等の連絡を徹底し、学校と家庭の連携を強化する。 同窓会の運営を滞りなく行う。			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	日々の教育活動（服装指導・授業強化等）を通して、社会で通用する人材の育成を図る。		
		家庭・地域・関係機関との連携（マナーアップ等）を図り、いじめ・非行等の未然防止に努める。		
	生徒理解の深化	生徒個人面談等で生徒の心の声を拾い上げ、軽微なSOSに対しても教職員の一致協力・連携による組織的指導体制の確立を図る。		
		生徒の実態・発達段階を踏まえながら、生徒が自己有用感を持てるよう寄り添い指導にあたる。		
安全教育の充実	朝夕の声かけ指導や通学路巡回の強化、交通関係の届（原付免許取得届等）等の提出の徹底を図る。			
	学校安全教育（交通講話等）の実践及び交通安全教育の推進に努める。			
特別活動	生徒会役員や各種委員会を中心とした魅力ある学校生活の実現	生徒評議会を開催し、クラスや各種委員会での話し合い活動の定着を図る。 一人一役による、生徒一人ひとりが活躍できる環境づくりに努める。 キャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を共有し、自己承認感を育む。		
	生徒会活動の活性化	生徒会活動が全校生徒によって運営されるように努める。 生徒会選挙では、実際の選挙に近づけて学びの場としての機能を設ける。		
	行事への積極的な参加	スポーツデイや芸術鑑賞会において生徒主体で企画・運営ができるように支援する。		
	部活動の活性化	加入率5割を目指し、勧誘活動の拡大及び地域や中学校への積極的なPR等に努める。 定時制通信制体育大会等への参加を通して、生徒の自己肯定感の向上を図る。		
進路指導	進路決定率100%を目指す。	各年次と連携し、早い時期からの進路研究を促す。 学校教育活動全般を通して、生徒の進路意識向上を図る。		
	適切な進路選択と早期進路決定を図る。	進路希望調査を実施し、希望に応じた進路ガイダンスを実施する。		
		進路体験学習、インターンシップ、1日看護体験への参加を促す。		
	個性や能力に応じた適切な指導に努める。	課外授業、模擬試験、資格試験等、生徒の要望に応じて適切な設定をする。 希望進路に応じた面接指導、作文指導の充実を図る。		
全校集会や年次集会における進路講話を通して、キャリア教育の充実に努める。	(進学) 進学の目的を明確にし、進路実現のための学校選択ができるようにする。 (就職) 働く意義を理解し、将来設計できるようなキャリア教育の充実に努める。			

別紙様式2（高）

	進路情報の提供と情報の積極的な活用を促進する。	生生徒や保護者にわかりやすく情報を提供し、進路資料室の活用等、情報の積極的な活用を促す。		
保健厚生	生徒・教職員の健康の保持・増進に努める	年間計画に基づき、健康管理、保健指導、健康診断、生活環境調査等の円滑な実施を行うとともに、保健だよりを通して、生徒・教職員に保健指導を行う。 心身の健康が気になる生徒については、担任、年次主任等との日常的な報告・連絡を密にする。		
	学校の環境整備・美化に努める	掲示物やクラスでの清掃オリエンテーションを通して、清掃、ゴミの分別処理等の徹底を図る。 校内安全点検を定期的に行い、校舎内外の改善箇所を把握する。 エアコンの使用上の注意を周知し、体調管理や節電に留意するよう促す。		
	火災や地震等の災害防止に努める	防災訓練の在り方を工夫・改善したり、災害対応備蓄品を整備したりして非常時に備える。 危機管理マニュアルを作成し、教職員に非常時の対応について周知する。		
	関係諸機関の連携と教育相談の充実	生徒個人面談を強化するとともに、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・キャンパスエイドの活用と教職員の協力・連携による組織的指導体制の確立を図る。		
	1年次	生徒一人一人の特性を理解した支援・指導により気付きを与え、自信を持たせる。 保護者と協力しながら自立を目指した教育活動の実践 教師の個性を活かしたチーム対応で、生徒が安心できる環境をつくる	生徒達への声掛け、休み時間の観察、生徒面談等を通して生徒の状況把握及び生徒理解に努める。 部活動や各種委員会・生徒会活動等での一人一役活動により生徒の自己有用感を育む。 生徒のチャレンジを褒め・育てる加点主義による指導で生徒の自己肯定感を育む。 良いこと・悪いことに関わらず学校での生徒の様子を伝え、家庭との情報交換を密に行う。 年次・学級通信等を通して、学校やホームルームでの様子を家庭に定期的に知らせる。 機動的に年次会を開催し、教員間の情報交換・共有を密にし、計画的な指導を行う。 計画的に年次集会を開催し、午前部・午後部で指導の統一を図る。 教員間の相互協力を通して、相乗効果を発揮する。	
2年次	基本的な生活習慣の確立に努める 保護者との信頼関係を構築する 教員間の密な連携により、組織的に活動する	チャイム前着席と授業準備を徹底させ、授業に集中できる環境づくりに努める。 社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。 良いこと・悪いことに関わらず学校での生徒の様子を伝え、家庭との情報交換を密に行う。 学級通信等を通して、学校やホームルームでの様子を家庭に定期的に知らせる。 機動的に年次会を開催し、教員間の情報交換・共有を密にし、計画的な指導を行う。 計画的に年次集会を開催し、午前部・午後部で指導の統一を図る。 教員間の相互協力を通して、相乗効果を発揮する。		
3年次	基本的な生活習慣の確立に努める 学校・家庭・生徒の相互の信頼関係を深める 卒業後の進路に対する意識や目標を持たせ、授業を大切にすることを育てる	チャイム前着席と授業準備を徹底させ、授業に集中できる環境づくりに努める。 社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。 生徒の様子を面談や電話で保護者に連絡し、家庭で気になる様子があれば学校に伝えてもらうよう保護者に働きかける。 学級通信等を活用し、学校生活の様子を家庭に知らせる。 進路指導部と協働して適切な情報を生徒に提供し、卒業後を見据えた進路を選択させる。 進路行事や授業等を通じて、進路の適性や決定までの手順について理解させ、希望に沿った進路指導や学習指導に努める。		
4年次	基本的な生活習慣の確立に努める 学校・家庭・生徒の相互の信頼関係を深める 自立に向けた進路目標の確立に努める	チャイム前着席と授業準備を徹底させ、授業に集中できる環境づくりに努める。 社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。 生徒の様子を面談や電話で保護者に連絡し、家庭で気になる様子があれば学校に伝えてもらうよう保護者に働きかける。 進路指導部や特別支援コーディネーターと協働して適切な情報を生徒に提供し、適切な進路を選択させる。		

別紙様式2 (高)

		進路行事や授業、面談等を通じて、進路の適性或決定までの手順について理解させ、希望に沿った進路指導や学習指導に努める。			
--	--	--	--	--	--

※評価基準 A : 大変良くできている B : 良くできている C : やや不十分 D : 不十分 E : わからない